

2 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>事業の目的は、キンザン省、チャビン省の幼稚園と小学校の教師が、障害ある児童を受け入れて、普通教室の中で、障害ある児童が、その児童に適した学習ができる事である。インクルーシブ教育とは、通常の学級に障害ある児童も一緒に学ぶ教育である。</p> <p>上記の省のインクルーシブ教育の核となる選ばれた各省 30 名のキーティチャー（20 名初等教育、10 名幼児教育）に、NPO 法人アジア・レインボーは、2022 年 7 月、インクルーシブ教育 2 週間研修を実施する。2 週間研修を受けたキーティチャーは、自身の地区に戻り、地区内の全小学校と幼稚園の管理者とインクルーシブ教育の教師に 2 日間から 3 日間の地区研修を実施する。地区研修を受けた管理者や教師は、各小学校と各幼稚園に戻り、校内研修を実施する。これにより、2 省の全小学校の教師と幼稚園の教師がインクルーシブ教育研修を受ける事ができる。地区研修や、校内研修後、幼稚園と小学校の教師は、障害ある児童に適した学習を提供する事ができる。</p> <p>The purpose of this project is that teachers who work in kinder gardens and primary schools will properly receive children with disabilities in their classes. And the children can study at their academic level and learn practical lessons together with non-disabled children in the same class. In Kien Giang and Tra Vinh provinces, Education and Training Departments select 30 key teachers (20 from primary schools and 10 from kinder gardens) in each province, send them to two-week inclusive education training courses in their provinces. After two-week the courses, all key teachers go back to their provinces or their own districts, then they provide two-day or three-day district training course for principals or teachers who receive children with disability in their classes at kinder gardens and primary schools. The principals and teachers who join district training courses will provide training courses in their own schools. Finally, all teachers in kinder gardens and primary schools in 2 provinces can receive training courses of inclusive education. Teachers who join district or school training courses can provide suitable lessons for each child with disability.</p>
(2) 事業の必要性と背景	<p>(ア) ベトナムにおける障害ある児童のニーズ</p> <p>現在ベトナムの障害ある児童の就学率は全体で 25%程度<sup>1</sup>とみなされる。ベトナムの障害ある 6 歳から 10 歳の児童およそ 21 万人<sup>2</sup>のうち、52,244 人<sup>3</sup>だけが初等教育を受けていて、157,756 人は学校にも行けなくて、ただ家にいるだけという現状である。ベトナムにおいて特別学校は各省に 1 校しかなく、田舎に住む障害ある児童が町の特別学校に通うというのは不可能に近い。</p> <p>インクルーシブ教育が普及する事により、より多くの障害ある児童が近隣の小学校や幼稚園に通えて、より適切な学習を受ける事ができる。</p>

<sup>1</sup> UNICEF ベトナム 2020 年度データ ベトナムの子供 <https://www.unicef.org/vietnam/children-vietnam>

<sup>2</sup> UNICEF ベトナム 2020 年度データ ベトナムの子供 <https://www.unicef.org/vietnam/children-vietnam>

<sup>3</sup> ベトナムの教育省 小学校の就学データ 2018 年度データ <https://moet.gov.vn/thong-ke/Pages/thong-ke-giao-duc-tieu-hoc.aspx>

ベトナムの教育省の障害ある児童の教育指針<sup>4</sup>は、「障害ある児童が近隣の学校に通えるように、学校でのインクルーシブ教育の運営方法の向上」、「障害ある児童が学校に通える環境作り」、「地域の人々のインクルーシブ教育の理解の促進」、「教師や補助教員、教育室や教育訓練局の職員へのインクルーシブ教育研修、個別教育の推進」、「研修、カリキュラム、早期教育、インクルーシブ教育の刷新。」である。

教育省は、各省の教育訓練局にインクルーシブ教育推進を奨励しているが、各省の教育訓練局、地区の教育室、各小学校の現場では、インクルーシブ教育を進める中で多くの問題を抱えている。

(イ) 事業地及び事業内容選定の理由

① キンザン省、チャビン省を選定した理由

先行事業のドンナイ省、ラムドン省、アンザン省、ビントウアン省の4つの省を鑑みると、メコンデルタ地域のアンザン省の貧困は、他省より深刻であると痛感した。毎年事業地の全地区を訪問する。アンザン省の地方の多くの村では、人民委員会のご担当者が、「村の9割の壮年が、この地では食べられなくて、ビンユン省やドンナイ省に出稼ぎに行き、村に残ったのは、老人と子供ばかりだ。」と話されていた。

メコンデルタ地域の1人あたりの年間所得の平均は、1,535ドル(3,460万VND)で、国内で最も低い収入の1つである。全国平均は、2,000ドル(4,620万VND)以上である。また、メコンデルタ地域の早期学校を退学する子供の割合は、他の地域の3倍である。メコンデルタは肥沃な土地で農業には好条件であるが、中間ブローカーによる低価格の米の購入が、農家の家計を圧迫している。さらに、近年の温暖化による海面の上昇は、田畑に海水侵入を起こさせ、作物は壊滅してしまう。また家財をすべて流される。それが農家の土地放棄を引き起こし、近年の浮遊民の増加に繋がっている。<sup>5</sup>

このような理由から、アジア・レインボーは、メコンデルタ地域での事業の実施を希望した。事業実施において教育訓練局の協力が不可欠なので、メコンデルタ地域の8省の教育訓練局に、事業実施の希望を伺ったところ、チャビン省とキンザン省教育訓練局が事業の実施を希望した。

② インクルーシブ教育研修システムの構築事業を実施する理由

	キンザン省	チャビン省
小学校の総生徒数	154,229人	88,706人
小学校の年齢の障害ある児童の数	1,367人	604人
小学校に通う障害ある児童の数	718人	394人
小学校に通えない障害ある児童の数 (家にいるだけ)	649人	210人
今までインクルーシブ教育研修を受けた小学校の教師の数	87人	66人

上記のデータから、キンザン省はおおよそ50%の児童、チャビン省は34%の児童が初等教育を受けられず、家にいるだけである。また、インクルーシブ教育を担当する教師の中で、インクルーシブ教育研修を受けていない教師は90%にもなる。インクルーシブ教育を担当する教師に研修を実施する事は急務である。

<sup>4</sup> 教育省長官 Le Tien Thanh 氏による声明 2011年10月 ハノイの SEAMOEL の会議にて。2011年度の声明が最新 ベトナムの教育省 2015年度のデータ

<sup>5</sup> [Empty bowl: Poverty floods Vietnam's Mekong Delta] A More Vulnerable World by Earth Journalism Network 17<sup>th</sup> Dec 2015.

申請事業は2年目である。

事業1年目で改善されたこと（現場教師）

- 1) 2省で障害ある児童の就学率は、障害ある児童およそ2500人の内50%以下であったのが、60%は近隣の幼稚園や小学校に通う事ができた。
- 2) 事業実施前、教師は障害ある児童を教室に座らせているだけで、個別の学習支援はなされていない。教室で障害ある児童は他の児童と同じ一般教科を学習していた。2省で障害ある児童を受け入れた小学校の教師およそ2000人のうち、1500人の教師が、個別ファイルや Individual Educational Plan<sup>6</sup>を作成している。
- 3) 事業実施前、障害ある児童の学力はほとんど向上していなかった。2省で小学校の障害ある児童およそ2000人のうち50%は、教師の作成した Individual Educational Planによると、児童の学力が向上している。
- 4) 事業実施前は、ほとんどの家族が子供の学習や生活は困難だと考えていた。2省で小学校に通う障害ある児童の両親（または祖父母）およそ2500人の内1000人が、児童が自分の身の回りの事をできるようになった、児童が家事の手伝いをするようになった、児童がよく話すようになった等、児童の学習や生活が向上したと考える。

事業1年目で改善されていないこと（現場教師）

- 1) Individual Educational Planを作成するためのアセスメントは、障害の種類や程度も多様であり、また同じ障害であっても症状が多様なため、難しい。
- 2) 障害ある児童の行動問題は理解したが、それぞれの行動問題への対応が難しい。
- 3) 教室を走り廻る等の行動問題に対応するために、補助教育が必要だ。しかし、補助教員がいない。
- 4) 校内研修は実施されるが、相談できる人が校長しかいない。校長は忙しそうで、相談しにくい。
- 5) 障害ある児童の両親は仕事で忙しく、連携できない。
- 6) 障害ある児童の診断書を作成できる医者がいない。人民委員会の診断チームが稼働していない。
- 7) 障害ある児童の担当の教師は、仕事量が多いのに、それに見合った手当が出ない。

<sup>6</sup> Individual Educational Plan (個別教育計画書) : 教師は、クラスでは通常、教育省で定められたテキストとスケジュールで授業を進めるが、この内容や授業速度であると、障害ある児童にとっては、難しく学習についていけないケースが多い。そのため、障害ある児童 各人の現在の能力と学習状況に合わせた各児童のための個別教育計画書の作成が必要となる。

●「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連性

「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 4：すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。4.5：2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。

ジェンダー 平等	環境援助	参加型開発 / 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外	2:主要目標	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動 (緩和)	気候変動 (適応)	砂漠化
1:重要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

●外務省の国別開発協力方針との関連性

当事業は外務省の「対ベトナム社会主義共和国国別開発協力方針」のうち、大目標の「ベトナムの抱える脆弱な側面及び公正な社会・国づくりを包括的に支援する。」に該当する。

中目標の(2)脆弱性への対応の「社会保障、社会的弱者支援等の分野で体制整備等の支援を行う。」に該当する。

●「T I C A D V I および T I C A D 7 における我が国取組」との関連性  
該当なし

(3)  
上位目  
標

キンザン省全域、チャビン省全域の小学校でインクルーシブ教育研修システムが構築され、他省のモデルとなっている。

(4)  
プロジ  
ェクト  
目標  
(今期  
事業達  
成目  
標)

各 2 省の各地区 (全 24 地区) の各地区内でインクルーシブ教育研修システムが構築され、障害ある児童の就学率が上がる。

キンザン省、チャビン省

各 2 省の各地区 (全 24 地区) の各地区内研修後、小学校と幼稚園で定期的にインクルーシブ教育研修が実施されている。

キンザン省、チャビン省

(5)  
活動内  
容

**活動 1** キーティチャー※ 育成研修毎年 7 月 (N 連の予算で実施) **研修 1**

※インクルーシブ教育において、その省の核となる人材

事業 1 年目に選任された各省 30 名のキーティチャーは、毎年 7 月にベトナムで 2 週間、3 年間継続して研修を受ける。(補足説明資料 2 参照)

現状の問題を解決するために事業 2 年目キーティチャー育成研修内容

- ① Individual Educational Plan を作成するための障害ある児童のアセスメント (観察手法)。

- ② 障害ある児童の両親へのカウンセリング演習。
- ③ クラス内で同級生が障害ある児童を支援する見守り隊の結成方法、ピア・ティーチング。
- ④ 幼稚園内、小学校内で、校内のインクルーシブ教育を支援する組織の結成方法。

**活動2** 各小学校校内指導教師研修 毎年10月 (N連の予算で実施) **研修2**

当会が結成したホーチミン市障害児教育専門家チームが、毎年、キンザン省、チャビン省で、それぞれ120名(計240名)を対象にしたインクルーシブ教育研修を、各省2回6日間: 幼児教育、初等教育対象の研修を実施する。それにより各省の各幼稚園、各小学校に1名~3名のインクルーシブ教育の校内指導教師を育成する。(事業3年目で計720名の教師への研修)

\*ホーチミン市障害児教育専門家チームには、先行事業で育成されたビントゥアン省、アンザン省の60名のキーティチャーの内、数名の優秀なキーティチャーも参加する。(補足説明資料2参照)

240名対象の3日間研修内容

- ① 各障害別の特徴。
- ② Individual Educational Planの作成演習。

**活動3** 各地区の地区内研修 毎年8月~10月 (各2省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) **研修3**

各2省の各地区(全24地区)では、各地区2名~4名のキーティチャーが、自身の所属する地区内の幼稚園と小学校の校長や副校長や教師(およそ50名~100名)に対して、必要時研修を実施する。(補足説明資料2参照)

キーティチャーによる地区研修内容

- ① Individual Educational Planを作成するための障害ある児童のアセスメント(観察手法)。
- ② 障害ある児童の両親へのカウンセリング演習。
- ③ クラス内で同級生が障害ある児童を支援する見守り隊の結成方法、ピア・ティーチング。
- ④ 幼稚園内、小学校内で、校内のインクルーシブ教育を支援する組織の結成方法。

**活動4** 各小学校、幼稚園の校内研修 毎年各学校の適時 (各2省各地区教育室の予算で実施、アジア・レインボーの専門家による適時の支援) **研修4**

各2省(全24地区)の各小学校、各幼稚園では、専門家により育成された校内指導教師が、障害ある児童を受け持つすべての教師に対して、必要に応じて研修を実

施する。この校内研修により、校内の全教師がインクルーシブ教育研修をうける事ができ、教師はクラスの障害ある児童を受け入れる事ができる。

(補足説明資料2参照)

**活動5** 各2省全地区対象モニタリングの実施 (N連の予算で実施)

アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省の全24地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、毎年全地区の小学校と幼稚園を訪問して、各地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。モニタリングの際、校長や教師から受けた問題は、その地区の教育室や省の教育訓練局に相談して対応したり、今年度の研修1で、同じ問題を解決したケースを研修に組み込んで対応する。(補足説明資料2参照)

**活動6** キンザン省、チャビン省の2省に、補聴器、車椅子を支援する。(N連の予算で実施)

アジア・レインボーは、キンザン省、チャビン省の2省の小学校の教師のために、補聴器や、車椅子を、各省のニーズに基づいて支援する。小学校に供与した補聴器や、車椅子の管理方法は、2省24地区の各地区の教育室が管理する。各教育室は、毎年アジア・レインボーに補聴器と車椅子の貸与の状況を報告する。

〈2021年度事業持ち越し〉

**活動5** 各2省全地区対象モニタリングの実施 (N連の予算で実施)

アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省の全24地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。モニタリングでは、毎年全地区の小学校と幼稚園を訪問して、各地区のインクルーシブ教育研修の構築状況を把握する。

2021年12月に実施予定であったモニタリングを、申請する事業2年次の2022年4月または、5月に持ち越しする。2021年度は、コロナ感染拡大のため、活動1から活動4の研修が、2021年12月以降となり、モニタリングの活動は、研修の成果を測る目的もあるので、次年度への持ち越しとなる。

直接裨益人口

2省全24地区のインクルーシブクラスの教師およそ2,000人(幼稚園、小学校)

2省全24地区の学齢期にあたる障害ある児童およそ2,500人(幼稚園、小学校)

間接裨益人口

2省全24地区学齢期にあたる障害ある児童の両親、祖父母、兄弟およそ10,000人

(6)  
期待される  
成果と成果を  
測る指標

**成果** キンザン省、チャビン省 全 24 地区  
小学校や幼稚園の教室で、障害ある児童は児童に適した学習を受ける事ができる。

**指標 1** 2023 年 2 月までに、2 省で、障害ある児童およそ 2500 人の 75%は、近隣の幼稚園や小学校に通う事ができる。

**根拠 1** 事業実施前は、障害ある児童の就学率は 50%以下である

**成果を測る指標の確認方法**

毎年 2 省の教育訓練局に障害ある児童の就学率、退学率のデータを提出してもらう。

**指標 2** 2023 年 2 月までに、2 省で、障害ある児童を受け入れた小学校の教師およそ 2000 人のうち、1500 人の教師が、個別ファイルや Individual Educational Plan を作成している。

**根拠 2** 事業実施前、教師は、障害ある児童を教室に座らせているだけで、個別の学習支援はなされていない。教室で、障害ある児童は、他の児童と同じ一般教科を学習している。

**成果を測る指標の確認方法**

アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。その時、指標についてもヒアリングする。

**指標 3** 2023 年 2 月までに、2 省で、小学校の障害ある児童およそ 2000 人のうち 50%は、児童の学力が向上している。

**根拠 3** 事業実施前、教師は、障害ある児童を教室に座らせているだけで、個別の学習支援はなされていない。教室で、障害ある児童は、他の児童と同じ一般教科を学習している。

**成果を測る指標の確認方法**

アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。その時、指標についてもヒアリングする。

**指標 4** 2023 年 2 月までに、2 省で、小学校に通う障害ある児童の両親（または祖父母）およそ 2500 人の内、2000 人が、児童の学習や生活が向上したと考える。

**根拠 4** 事業実施前は、ほとんどの家族が子供の学習や生活は困難だと考えている。

**成果を測る指標の確認方法**

アジア・レインボーは、毎年、キンザン省、チャビン省全地区でモニタリング及びカウンセリングを実施する。その時、指標についてもヒアリングする。

(7) 持  
続発  
展  
性

事業終了後は、各省の教育訓練局が主体となり、申請事業によって育成されたキーティチャーと各省教育訓練局が協力して、「1. キーティチャーが地区内の教師に研修を実施する。」「2. 地区内研修を受けた教師が、今度は自身の小学校内や幼稚園内で研修を実施する。」という研修システムを継続していく。(補足説明資料2参照)

事業終了後は、すでに24地区でインクルーシブ教育研修システムが構築されているので、続けて、申請事業の活動3と活動4が継続される。活動3と活動4は、申請事業でも、各地区の予算、各小学校の予算で実施される。つまり、事業終了後の予算は確保されている。

この事業で最も力を入れているのは、各省のキーティチャー60名の育成である。各省の各地区で数名のキーティチャーが協力し責任をもって、自身の所属する地区の障害ある児童を受け入れた教師に対して、必要時に研修を実施できる能力を育成すれば、持続的にその地区では研修が実施される。

そして、2024年2月までに、2省で、障害ある児童およそ2500人の85%は、近隣の幼稚園や小学校に通う事ができる。

与した機材の管理は、2省24地区の各地区の教育室が実施する。供与を受けた地区の教育室は、毎年アジア・レインボーに機材の状況を報告する。機材の修理は、機材の供与を受けた各小学校が実施する。この旨は、事業実施時に、アジア・レインボーと2省の教育室が契約書を交わす際、契約書に盛り込む。